

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 11 日現在

機関番号：36102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730187

研究課題名(和文) スコットランド啓蒙における道徳と市場経済の把握 - アダム・スミスと穏健派を中心に

研究課題名(英文) Comprehending Morality and the Market Economy in the Scottish Enlightenment: Adam Smith and the Moderates

研究代表者

古家 弘幸 (Furuya, Hiroyuki)

徳島文理大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：30412406

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：スミスを中心に道徳哲学と経済学について取り上げ、スコットランド啓蒙思想は当時の大学の道徳哲学のカリキュラムに組み込まれていた自然法学の枠組みを基本としつつ、共和主義的な商業批判からも示唆を受けながら、新しい時代の道徳哲学や経済学、さらには歴史学に貢献を果たしたことを明らかにすることができた。またスコットランド啓蒙思想全体に共通する特徴の一つは、人間の持つ自然な社交性についてのストア的分析であった点も、明確にすることができた。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the moral philosophy and political economy of the Scottish Enlightenment, especially Adam Smith, my studies have clarified that the Scottish Enlightenment hugely contributed to those subjects and historical writings in a new era, based on the framework of natural law studies applied to the moral philosophy curriculum of the universities in those days as well as insights from the civic humanist critiques of commerce. My studies also have clarified that one of the characteristics of the Scottish Enlightenment thought was a Stoic analysis of natural human sociability.

研究分野：経済思想史

キーワード：国際情報交換 英国 経済思想史 スコットランド啓蒙 アダム・スミス 美の哲学 トマス・ヘップバーン オークニー諸島

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 応募者は本研究課題が採択されるまで、アダム・スミス (Adam Smith, 1723-90) を中心に 18 世紀スコットランド啓蒙の経済思想について研究を行い、その成果を英国エディンバラ大学で博士論文に結実させるとともに、国内外で報告・発表してきた。

(2) 一八世紀スコットランドの啓蒙思想において、社交性 (sociability) をめぐる議論は、ストア哲学に強く影響された言語を用いて書かれた。スミスの師、フランシス・ハチスン (Francis Hutcheson, 1694-1746) は、善悪の区別をストア哲学の長所と捉え、オランダ出身のロンドンの風刺作家、バーナード・マンドゥヴィル (Bernard Mandeville, 1670-1733) が『蜂の寓話』(1714年)で提示した「私恵こそ公益」と見なす市場経済把握を、ストアの言語を用いて批判しようとした。スミスが在学中のスコットランドのグラスゴー大学では、ハチスンの影響下でギリシア・ラテンの古典研究が再興し、その中からストア哲学の古典であるマルクス・アウレリウス『省察録』のハチスンによる英訳が生まれた (1742年)。

(3) スコットランド啓蒙に先立つ欧州ルネサンス期の道徳・政治思想の用語がストア哲学を出典としていた点を最初に強調したのは、クウェンティン・スキナー『近代政治思想の基礎』(1978年)であるが、ストア哲学の「摂理」(Providence) の概念などが、スミスの「見えざる手」などの発想の源泉となった可能性については、早くからアレック・マクフィー『社会における個人』(1967年)を始め、多くの論者によって指摘されてきた。直近のスミス研究でも、フォンナ・フォルマン＝パーズレー『アダム・スミスと同感の輪』(2010年)が、スミスの倫理学におけるストア哲学の広範な影響について、本格的に論じていた。

## 2. 研究の目的

(1) 応募者の本研究「スコットランド啓蒙における道徳と市場経済の把握 アダム・スミスと穏健派を中心に」は、ストア哲学の言語が、上記のマルクス・アウレリウス『省察録』のハチスンによる英訳からスミスの『道徳感情論』(1759年)に継承され、スコットランド教会穏健派の思想における受容と変容を経て、やがてスミスの『国富論』(1776年)において経済学の言語に発展していったプロセスに光を当ててを目的としていた。

スコットランド啓蒙の道徳哲学と経済思想に対するストア哲学の影響は、応募者にとっては、英国エディンバラ大学における博士学

位論文に始まる研究テーマであったが、本研究は、応募者によるその後の研究成果であるスコットランド教会穏健派の経済思想に関する論考や、近年の国内外の新しい研究文献をも踏まえて、ルネサンス期以来の欧州近世思想におけるストア哲学の影響を受けて一七世紀に登場した大陸のネオ・ストア派の思想が、一八世紀スコットランドの啓蒙思想に引き継がれ、従来から研究の焦点となってきたスミスの倫理学だけでなく、経済思想にも大きな影響を与えたという側面に光を当てようとした。近世英国における市場経済の成長と、それに伴う道徳理解の変容という具体的な歴史的脈絡の中に位置付けながら、スコットランド教会穏健派とスミスの経済思想を相互に関連付けて動的に理解することで、イングランドではなくスコットランドにおいて、新しい経済学の言語が形成されていた必然性を明らかにすることも目的であった。

## 3. 研究の方法

(1) 2014年8月から9月まで、および2015年8月から9月まで、英国スコットランドのエディンバラの大学図書館や国立図書館へ赴いて多くの資料を収集・分析した。現地では入手できない資料の収集、文献調査は、国内外での学会・研究会発表だけでなく、「パンドラー訴訟」についての英語による研究論文 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in Eighteenth-Century Scotland'、日本語によるスコットランド啓蒙についての研究論文「社会、言語、思想 スコットランド啓蒙の諸相」、およびアイルランド大飢饉についての研究論文「古典派経済学とアイルランド大飢饉」の執筆・出版に、大いに資する結果となった。

(2) 2010年以降、欧州経済思想史学会 (ESHET) と、北米経済学史学会 (HES)、および国内の学会における個別研究発表を、毎年少なくとも二回以上行うという研究サイクルを確立し、研究論文の執筆と出版を継続的に進めてきた。

## 4. 研究成果

(1) 2012年度には、アダム・スミスにおけるストア哲学の受容、およびそれがスミスの『国富論』における経済学の言語の形成に果たした役割についての英語論文 'Beauty as Independence: Stoic Philosophy and Adam Smith' を執筆し、*The Kyoto Economic Review*, 80(1)に発表した。この論文により、スミスに先行したハチスン、ヒュームの著作を踏まえた上で、スミスにおける近世市場社会の認

識の特質を明らかにする端緒とすることができた。5月の欧州経済思想史学会 (ESHET, St Petersburg, Russia) では、'Beauty and Economy in Adam Smith' との題目で個別研究報告を行った。この研究発表により、スミスの『道徳感情論』で提示された美的判断の理論が、やがて『国富論』において、スミスによる経済分析のベースを提供したという、従来あまり注目されることのなかった側面を明らかにする出発点とできた。11月には、'Working the Peripheral into the Picture: The Case of Thomas Hepburn in Eighteenth-Century Orkney' との題目で、欧州経済思想史学会アルゼンチン大会 (ESHET-Argentina, Meeting of Historians of Economic Thought from Europe and Latin America, UNGS Political Economy Department and CEFID-AR, Buenos Aires, Argentina) において、個別研究報告を行い、前年に出版に至ったヘップバーン研究の成果を南米の研究者に披露することができた。

(2) 2013年度には、5月の The 17th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (Kingston University, London) において、'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in the Eighteenth Century' との題目で学会発表を行い、本研究の目的であるスコットランド教会穏健派の経済思想が、市場経済の拡大とそれにつれて変容する道徳を当時の歴史的文脈の中でどのように捉えたかについての一端を提示した。発表原稿は、「オークニー諸島の野蛮と啓蒙 改良と抵抗のはざままで」と題して田中秀夫・編著『野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近』(京都大学学術出版会、2014年3月)の第7章として出版され、申請者によるオークニー諸島の啓蒙思想研究としては一応の完結を見ることとなった。また6月の The 40th Annual Conference of the History of Economics Society (University of British Columbia, Vancouver, Canada) において、'Fitness as Ingenuity: Judgment of Taste in Adam Smith's Theory of Moral Sentiments' との題目で学会発表を行い、スミスの『道徳感情論』における美的判断の理論について提示した。12月には国際基督教大学のキリスト教と文化研究所において、「社会、言語、思想 スコットランド啓蒙の諸相」と題して特別公開講演会を行った。発表原稿は2015年3月に、「社会、言語、思想 スコットランド啓蒙の諸相」と題する論文としてまとめ、国際基督教大学キリスト教と文化研究所が発行する『人文科学研究 (キリスト教と文化)』に出版することが出来た。

(3) 2014年度には、5月のスイスのローザンヌ大学における欧州経済思想史学会 (ESHET) の年次大会で、'The Invisible Hand

in Adam Smith: Stoic or Calvinist?' と題して研究発表を行い、アダム・スミスにおけるストア哲学の受容についての研究を一歩進めた。スミス研究としては、2015年1月にニコラス・フィリップソン『アダム・スミスとその時代』永井大輔・訳 (白水社、2014年)の書評を『図書新聞』に掲載した。並行して進めてきたオークニー諸島におけるスコットランド教会穏健派の経済思想の研究としては、9月に明治大学で行われた国際学会にて、'Barbarism and Enlightenment in Eighteenth-Century Orkney' との題目で研究発表を行い、発表原稿を 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in Eighteenth-Century Scotland' とのタイトルで完成させ、年度末の2015年3月に *Meiji Journal of Political Science and Economics* に出版することが出来た。オークニー諸島関連の研究は、この論文をもって無事に完結を見ることとなった。

(4) 2015年度には、5月のローマ第三大学の欧州経済思想史学会 (ESHET) における研究発表 'Nassau Senior, the Whig Government, and the Great Irish Famine' をもとに、「古典派経済学とアイルランド大飢饉」と題する研究論文を完成させ、勝田俊輔・高神信一・共編著『アイルランド大飢饉 ジャガイモ、「ジェノサイド」、ジョンブル』(刀水書房、2016年2月)の第4章 (pp. 91-119) として出版することが出来た。本研究「スコットランド啓蒙における道徳と市場経済の把握」から派生した研究トピックであり、文明の発展段階と経済学の関わりについて考察する上で、18世紀スコットランドだけに視野を限定することなく、19世紀アイルランドとの比較史の観点を導入することで、研究射程を拡げることが出来た。また9月には明治大学での国際学会 International Conference on Economic Theory and Policy にて、'The Theological Language in Adam Smith: Providentialism and the Idea of an Invisible Hand' と題する研究報告を行った。5月の滋賀大学での経済学史学会では、Yutaka Furuya, 'James Steuart and the Ancient Economy' の司会を担当した。夏季にはスコットランドへ赴き、出身校であるエディンバラ大学、およびスコットランド国立図書館 (NLS) にて、文献調査等を行うことが出来た。また指導教官であった Nicholas Phillipson 氏を、2017年に徳島文理大学で開催する経済学史学会第81回研究大会に特別招待講演者として招聘する企画を進め始めた。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

古家 弘幸「社会、言語、思想 スコットランド啓蒙の諸相」『人文科学研究 (キリスト教と文化)』(国際基督教大学キリスト教と文化研究所、2015 年 3 月) 第 46 巻: pp. 89-147. 査読有

Hiroyuki Furuya, 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in Eighteenth-Century Scotland', *Meiji Journal of Political Science and Economics*, 3 (Tokyo: Meiji University, March 2015): pp. 36-52. 査読有

古家 弘幸「書評 ニコラス・フィリップソン『アダム・スミスとその時代』永井大輔・訳 (白水社、2014 年)」『図書新聞』(2015 年 1 月 10 日号): p. 3. 査読有

Hiroyuki Furuya, 'The Invisible Hand in Adam Smith: Stoic or Calvinist?', in The 18th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), *Liberalisms: Perspectives and Debates in the History of Economic Thought* (May, 2014), p. 86. 査読有

古家 弘幸「書評 林直樹『デフォーとイギリス啓蒙』(京都大学学術出版会、2012 年)」『経済学史研究』(経済学史学会、2013 年 7 月) 第 55 巻第 1 号: pp.124-125. 査読有

Hiroyuki Furuya, 'Fitness as Ingenuity: Judgment of Taste in Adam Smith's *Theory of Moral Sentiments*', in The 40th Annual Conference of the History of Economics Society (HES), *Conference Program and Abstracts* (June, 2013), p. 16. 査読有

Hiroyuki Furuya, 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in the Eighteenth Century', in The 17th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), *Economic Theory and Business Practice: Their relations*

*through the ages* (May, 2013), pp. 71-72. 査読有

Hiroyuki Furuya, 'Fitness as Ingenuity: Beauty and Economy in Adam Smith', in The 16th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), *Institutions and Values in Economic Thought* (May 2012), p. 222. 査読有

〔学会発表〕(計 14 件)

Hiroyuki Furuya, 'The Theological Language in Adam Smith: Providentialism and the Idea of an Invisible Hand', International Conference on Economic Theory and Policy, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo (22-24 September, 2015).

Hiroyuki Furuya, 'Nassau Senior, the Whig Government, and the Great Irish Famine', The 19th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'Great Controversies in Economics', Session G04: 'Economists and Policy Making', Roma Tre University, Rome, Italy (14-16 May, 2015).

Hiroyuki Furuya, 'Barbarism and Enlightenment in Eighteenth-Century Orkney', International Conference on New Thinking in Economic Theory and Policy, Session: 'Economic Thought', Academy Common, Meiji University, Tokyo (13-15 September, 2014).

Hiroyuki Furuya, 'The Invisible Hand in Adam Smith: Stoic or Calvinist?', The 18th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'Liberalisms: Perspectives and Debates in the History of Economic Thought', Session B4: 'Adam Smith on Ethics and Economics', University of Lausanne, Switzerland (29-31 May, 2014).

古家 弘幸「社会、言語、思想 スコットランド啓蒙の諸相」(国際基督教大学キリス

ト教と文化研究所特別公開講演会、2013年12月13日).

古家 弘幸「国際雑誌投稿について 経済学史学会第9回若手研究者育成プログラム講演」(経済学史学会第9回若手研究者育成プログラム、リフレフォーラム(東京都江東区大島)、2013年11月9-10日).

Hiroyuki Furuya, 'From Propriety to Impartiality in Adam Smith', International Ricardo Conference, Liberty Tower, Meiji University, Tokyo (16-18 September, 2013).

Hiroyuki Furuya, 'Fitness as Ingenuity: Judgment of Taste in Adam Smith's *Theory of Moral Sentiments*', The 40th Annual Conference of the History of Economics Society (HES), Session D3: 'Eighteenth-Century Economics: Cantillon, Smith, Reid', University of British Columbia, Vancouver, Canada (20-22 June, 2013).

Hiroyuki Furuya, 'The Enlightenment Idea of Improvement and its Discontents: The Case of Orkney in the Eighteenth Century', The 17th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'Economic Theory and Business Practice: Their relations through the ages', Session E2: 'Hume and the Scottish Enlightenment' (Chair: Hiroyuki Furuya), Kingston University, London (16-18 May, 2013).

Hiroyuki Furuya, 'Working the Peripheral into the Picture: The Case of Thomas Hepburn in Eighteenth-Century Orkney', ESHET-Argentina, 'Core and Periphery Countries: Lessons From Economic History and the History of Economic Thought', Meeting of Historians of Economic Thought from Europe and Latin America, Session D1: 'Classical Political Economy', Universidad Nacional General Sarmiento Political Economy

Department and Centro de Economía y Finanzas Para el Desarrollo de la Argentina, Buenos Aires, Argentina (21-23 November, 2012).

古家 弘幸「スコットランド啓蒙時代のオークニー諸島における改良と抵抗」、セッション「野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近」社会思想史学会第37回研究大会、一橋大学(2012年10月).

古家 弘幸「独立としての美の概念について ストア哲学とスミス」「野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近」研究会第6回例会、京都大学(2012年10月).

Hiroyuki Furuya, 'Adam Smith and his Characterisation of the Merchant-Landowner in *The Wealth of Nations*', International Conference on Structural Economic Dynamics, Session: 'Adam Smith', Academy Common, Meiji University, Tokyo (3-5 September, 2012).

Hiroyuki Furuya, 'Fitness as Ingenuity: Beauty and Economy in Adam Smith', The 16th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought (ESHET), 'Institutions and Values in Economic Thought', Session H.3: 'Smith - 2', St Petersburg State University, St Petersburg, Russia (17-19 May, 2012).

{ 図書 }(計2件)

古家 弘幸「古典派経済学とアイルランド大飢饉」、勝田俊輔・高神信一・共編著『アイルランド大飢饉 ジャガイモ、「ジェノサイド」、ジョンブル』(刀水書房、2016年2月)第4章: pp. 91-119.

古家 弘幸「オークニー諸島の野蛮と啓蒙 改良と抵抗のはざままで」、田中秀夫・編著『野蛮と啓蒙 経済思想史からの接近』(京都大学学術出版会、2014年3月)第7章: pp. 219-254.

{ その他 }  
ホームページ等

徳島文理大学 HP・各教員の業績および保有学位

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/edu-info/pdf/teacher/1050039.pdf>

徳島文理大学 HP・web シラバスシステム

[http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/teacher\\_ichiran.php?ID=1050039&FACID=8A&year=2016](http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/teacher_ichiran.php?ID=1050039&FACID=8A&year=2016)

Read researchmap

<http://researchmap.jp/read0144022/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

古家 弘幸 (FURUYA HIROYUKI)

徳島文理大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：30412406

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：